

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和8年1月1日～令和8年6月28日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和7年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 8 年	104	20	1	38	63	122
令 和 7 年	125	27	3	58	59	147
前 年 同 期 比	-21	-7	-2	-20	4	-25

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	7	6.7%	0	0	4	4	8
	後立山	34	32.7%	12	0	9	24	45
	その他	6	5.8%	1	0	5	1	7
計		47	45.2%	13	0	18	29	60
中央アルプス		9	8.7%	0	0	3	7	10
南アルプス		0	0.0%	0	0	0	0	0
八ヶ岳連峰		13	12.5%	4	0	4	7	15
その他の山岳		35	33.7%	3	1	13	20	37
計		104		20	1	38	63	122

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	33	31.7%	8	0	27	0	35
転 倒	8	7.7%	0	0	8	0	8
病 気	7	6.7%	3	0	0	4	7
道 迷 い	21	20.2%	0	0	0	31	31
落 石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪 崩	3	2.9%	2	0	1	0	3
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	9	8.7%	2	0	0	7	9
不明・他	23	22.1%	5	1	2	21	29
計	104		20	1	38	63	122

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	1	5	6	30 36.1%	0	0	0	2	2	16 41.0%	8	46 37.7%
20代	2	0	2	13	17		0	0	1	4	5		22	
30代	1	0	2	4	7		1	0	1	7	9		16	
40代	4	0	6	6	16	31 37.3%	1	0	1	1	3	14 35.9%	19	45 36.9%
50代	5	0	5	5	15	22 26.5%	1	0	6	4	11	9 23.1%	26	31 25.4%
60代	2	0	6	6	14		2	0	2	1	5		19	
70以上	1	1	3	3	8		0	0	2	2	4		12	
計	15	1	25	42	83		5	0	13	21	39		122	
比 率	68.0%						32.0%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（6/22～6/28）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
6月23日	ハケ岳連峰 横岳	男	61	死亡	滑落	単独で美濃戸口から入山し、何らかの原因で、滑落。
6月23日	北アルプス 針ノ木岳	女	54	負傷	滑落	2人パーティで針ノ木雪渓を登山中、雪上でスリップし、滑落、負傷。
6月24日	北アルプス 白馬岳	女	37	無事救出	道迷い	7人パーティで白馬大雪渓を登山中、道に迷い、行動不能。
		男	44			
		女	44			
		男	45			
		女	30			
		男	41			
		女	32			
6月27日	北アルプス 白馬岳	男	56	負傷	滑落	2人パーティで白馬大雪渓を登山中、雪上でスリップし、滑落、負傷。

先週県内では、4件の山岳遭難が発生しました。

ハケ岳連峰では滑落による死亡遭難、針ノ木雪渓や白馬大雪渓では、雪渓上でのスリップによる滑落や道迷い遭難が発生しました。

この時期、白馬大雪渓での滑落遭難の多くは、葱平から岩室間の急な雪渓上で頻発します。

夏道は岩が露出していますが、この時期は岩場の急斜面に雪渓がしっかりと残っているため、トラブルの大半は雪渓の通過時に発生しています。

スリップしても装備が無いため滑落を止めることができず、滑落がどんどん加速し、その先の露出した岩などに衝突して重傷を負う遭難がほとんどです。

夏場の白馬大雪渓は「軽アイゼンにストック」というイメージですが、急斜面に雪渓が残るこの時期は、「アイゼン+ピッケル」の携行と装着が推奨されます。

基本的に、手にストック、靴には軽アイゼンやチェーンスパイクでは、急斜度の雪渓で滑った場合、滑落を止めることはできません。

適切な装備品を携行し、適切なタイミングで使用する判断力が重要です。